

「一分間の感動」より紹介します。

その女性は何をしても続かない人でした。最初彼女はメーカー系の企業に就職します。ところが仕事が続きません。すぐに上司と衝突し、あっという間にやめてしまいました。彼女の履歴書には、入社と退社の経歴がズラッと並ぶようになり、そういう履歴書では、正社員にはなれず派遣社員になりました。

派遣の紹介でスーパーでレジを打つ仕事をしました。当時のレジスターは、値段をキーボードに打ち込まなくてはならず、多少はタイピングの訓練を必要とする仕事でした。ところが、勤めて1週間もするうち彼女は「私はこんな単純作業のためにいるのではない」と考え始めたのです。とはいえ今まで転職を繰り返し我慢の続かない自分が、彼女自身も嫌いになっていました。もっとがんばらなければ、もっと耐えなければダメということは本人にもわかっていたのです。

しかし、どうがんばっても続かず、故郷へ帰る事にしました。引越しの準備の時、小さい頃に書いた日記を見つけました。「私はピアニストになりたい」と書かれているページを発見したのです。そう彼女の高校時代の夢です。彼女は心から夢を追いかけていた自分を思い出し、日記を見つめたまま本当に情けなくなりました。「あんなに希望に燃えていた自分が今はどうだろうか。履歴書にはやめてきた会社がいくつも並ぶだけ。自分が悪いのはわかっているけど、なんて情けないだろう。そして私は又今の仕事から逃げようとしている」。

彼女は用意していた辞表を破り、翌日もあの単調なレジ打ちの仕事をするためにスーパーへ出勤していきました。そこで「そうだ私は私流にレジ打ちを極めてみよう」と。すると不思議なことに、これまでレジのボタンだけ見ていた彼女が、今まで見もしなかったところへ目がいくようになったのです。

最初に目に映ったのはお客さんの様子でした。お客さんとコミュニケーションをとることが楽しくなりました。いつしか彼女はレジに来るお客さんの顔をすっかり覚えてしまい、名前まで一致するようになりました。彼女は、だんだんこの仕事が楽しくなってきました。

そんなある日のことでした。「今日はすごく忙しい」と思いながら彼女はいつものようにお客さんとの会話を楽しみつつレジを打っていました。すると、店内放送が響きました。「本日は大変混み合います大変申し訳ございません。どうぞ空いているレジにお回りください」ところがわずかな間に又「本日は混み合います大変申し訳ありません。重ねて申し上げますがどうぞ空いているレジのほうへお回りください」初めて彼女はおかしいと気づき、周りを見渡して驚きました。5つのレジが全部空いているのに、お客さんは自分のレジにしか並んでいなかったのです。店長があわてて駆け寄りお客さんに「どうぞ空いているあちらのレジへお回りください」と言ったその時、お客さんは店長に「放っておいてちょうだい。私はここへ買い物に来てるんじゃない。あの人としゃべりに来てるんだ。だからこのレジじゃないとイヤなんだ」その瞬間レジ打ちの女性はワッと泣き崩れました。仕事というのはこれほど素晴らしいものなのだと、初めて気づきました。すでに彼女は昔の自分ではなくなっていたのです。

それから、彼女はレジの主任になって新人教育に携わりました。彼女から教えられたスタッフは、仕事の素晴らしさを感じながら、お客さんと楽しく会話していることでしょう。

Q 1 : この女性から学ぶ事は何でしょうか？

A 1 : ()